

# 守る

Disaster Prevention

## 登米市国民保護計画がまとまりました。

市では、平成19年2月に「登米市国民保護計画」を策定しました。この計画は、弾道ミサイルやテロなどによる、わが国に対する武力攻撃から国民の安全を守るために、国の基本指針や県の計画に沿って策定したものです。

わが国が外部からの武力攻撃や大規模テロなどを受けた場合に、国民の生命、身体、財産を保護し、その影響をできるだけ少なくすることを目的とした「国民保護法」が平成16年6月に制定されました。この法律では、住民の避難や救援および武力攻撃、災害への対処など、国民を保護するための措置や都道府県、市町村がそれぞれ「国民保護計画」を作成するように定められています。

市では、この法律に基づき、国、県、公共機関の職員や消防団長などで構成する「登米市国民保護協議会」における審議、県との協議を経て、平成19年2月に「登米市国民保護計画」を策定しました。国は万が一、武力攻撃や大規模テロなどが起きた場合、または起きると予測される場合に、警報を発令します。市では、その内容を市民皆さんに防災行政無線などでお知らせします。

また、避難する必要がある場合には、市は県からの避難指示を受けて、避難場所や避難場所までの移動手段などをお知らせするとともに、避難誘導を行います。

そのほか、避難してきた人たちに食糧や医療などを提供したり、関係機関と連携して安否情報を収集し、問い合わせに対して回答したりします。また、武力攻撃などで発生した火災などから市民を守るために、警戒区域の設定や消火・救急・救助活動なども行います。

**【問い合わせ】**

総務部防災課  
☎0220(22)2130

## 全スタッフの思いが一つに

### 市民劇場「夢フェスタ水の里」

市民劇場「夢フェスタ水の里」(財団法人登米文化振興財団主催)が2月24、25日の両日、登米祝祭劇場で開催されました。

9回目となる今回は、津山の実話を題材とした「わが命は風につれて」締切沼物語(幕末から明治にかけて)を、幕末から明治にかけて黄牛村(現在の津山町柳津黄牛地区)で流行した「黄牛病」から、村人を救うために医師の高屋養仙とともに原因究明に尽力した鈴木安右衛門をめぐ

る物語を、市内外の出演者約30人が演じました。この公演に向けて約1年前から準備がスタート。役者はもちろん、脚本、演出、舞台制作、広報などすべてがボランティアの手によって進められ、子どもから大人までの市民約150人が連日汗を流して準備を行いました。

夜公演の初日は810人、昼公演の最終日には930人と立ち見が出るほどの大盛況で、熱のこもった演技に会場



150人のボランティアの力で進められた市民劇場



劇はハル(左)とヤス(右)の恋愛を軸に展開



子どもから大人まで幅広い年齢層が出演

はわれんばかりの拍手や歓声が鳴り響きました。

観賞した市内の主婦は「初めて見ましたが、大変感動しました。出演者の努力や一生懸命さが伝わる素晴らしい劇。今後さまざまな題材で続けてほしい」と話していました。市民劇場は平成10年にスタートして、旧登米郡8町の題材を公演。合併により津山町を取り上げたことで一回りしましたが、新年度以降も公演する予定となっています。

## 仲間・地域づくりをしませんか

### 平成19年度女性セミナー参加者募集

地域のコミュニティーや女性同士のつながりが弱くなっている現在、さまざまなテーマの学習会を自主的に企画・運営することで、仲間づくりや地域の次期リーダーとなるためのスキルアップ(技能や能力の向上)を目指します。ぜひお申し込みください。

- 【対象者】 市内在住の20~50歳代の女性  
※過去に受講したことのある人はご遠慮ください。
- 【定員】 30人(先着順)
- 【内容】 環境、健康、地域づくりなど
- 【申込締切】 4月27日(金)
- 【申込方法】 電話、ファクシミリ、Eメール  
※氏名、住所、電話番号、年齢を明記してください。
- 【問い合わせ・申し込み先】  
教育委員会生涯学習課  
☎0220(34)2698 FAX0220(34)2504  
Eメール syogaigakusyu@city.tome.miyagi.jp



昨年行われたセミナーの様子

**【学習会日程・内容】**

	月日	会場	テーマ
1	5月22日(火)	中田生涯学習センター	コミュニケーション
2	6月21日(木)	東和勤労青少年ホーム	環境
3	7月18日(水)	登米公民館	健康
4	8月28日(火)	仙台地方検察庁(仙台市)	移動研修 ~裁判員制度を学ぼう
5	9月26日(水)	南方公民館	地域づくり
6	10月19日(金)	迫公民館	学習会を企画しよう

## 若者が地域に溶け込んで

### 第2回市青年文化祭



メンバーが9~25歳までの豊里風の会による太鼓演奏

第2回市青年文化祭が2月25日、中田農村環境改善センターで開催され、多くの地域住民が来場しました。開会式では、高橋吉輝青年団連絡協議会長(迫)が「日ごろの活動内容を披露するた

めに連日遅くまで準備してきました。市内の青年がまだまだ元気だということを感じてください」とあいさつしました。今回の文化祭は、県の青年リーダー育成事業を活用して「みんなで遊ぼう昔のあそび」をテーマに開催。市内産のスキで作成した羽子板を使って、会場の屋外で昔懐かしい羽根突き遊びを実施しました。



さまざまなデザインの羽子板を審査する来場者

また、上沼小4~6年生児童が作成した「飾り羽子板コンテスト」も実施し、上位10人に地場産品などの記念品が贈呈されました。そのほか、書道、写真、手芸品などの美術・生活文化展、太鼓演奏などの郷土芸能発表、歌謡なども行われ、地域住民と交流を深めました。